



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
12/6 (月)	▲ 300	+ 11,400	+ 11,100	国庫短期証券 発行・償還 (3M)	国債補充供給 + 100 CP等買入 ▲ 100 社債等買入 ▲ 300	国債買入 + 10,700	
12/7 (火)	▲ 1,000	トン	▲ 1,000				日: 景気先行CI指数 (10月) 米: 貿易収支 (10月)
12/8 (水)	トン	▲ 9,000	▲ 9,000	国債発行 (30年)	共通担保 (全) ▲ 2,600		日: GDP (3Q)
12/9 (木)	▲ 1,000	トン	▲ 1,000				
12/10 (金)	トン	▲ 28,000	▲ 28,000	国債発行 (5年) 国庫短期証券 発行・償還 (6M)			米: CPI (11月) 財政収支 (11月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初535兆9,100億円から始まり週を通して減少基調にあった。12月1日には2年債の発行等により533兆4,500億円、2日には税保険揚げ等により526兆5,300億円、週末の3日には10年債の発行等により523兆7,100億円まで減少し越週した。

無担保コールON物加重平均金利は、週初前営業日比△0.004%の△0.047%から始まった。その後11月30日~12月2日はビッドサイドの動向に大きな変化はなく、同金利は△0.048%~△0.050%で推移した。週末3日積みみの12月3日はビッドサイドの一部で調達意欲の高まりも見られ、同金利は△0.043%まで上昇した。

ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.040%~△0.005%の水準で出合いが見られた。

来週の主な予定は、国内で7日に景気先行CI指数 (10月) の公表、8日にGDP (3Q) の公表などがあり、海外では7日に米貿易収支 (10月) の公表、10日に米CPI (11月) 及び米財政収支 (11月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.085 ~ 0.001
1M	△0.050 ~ 0.020
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

<レポ>

足許GC取引は、11月末受渡しとなる週初は波乱なく、△0.095%前後の出合いが中心であった。以降は週央まで横ばい水準で推移したが、国庫短期証券の入札日となった週末は△0.08%台まで上昇して越週した。SC取引は2年410~431回債、5年137~149回債、10年333~364回債、20年163~178回債、30年69~72回債、40年9~14回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.080 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約7,700億円で、週間償還額 (約800億円) を上回った。発行市場は、石油業や建設業、鉄鋼業等の複数の業種で大型案件が見られたことから、マーケットは活況となった。発行残高は先週末の25兆1,756億円から、2日時点で25兆4,676億円に増加した。発行レートは、引き続き、希少銘柄等においては深いマイナスレートでの出合いも見られたが、大型発行案件については浅いマイナスレートでの出合いとなった。

来週の週間償還額は、約3,300億円程度となっている。発行市場は、5・10日発行が予定されるため、取引は活況が見込まれる。発行レートは、日銀オペ等の対象銘柄や希少銘柄等では、引き続き深いマイナスレートでの出合いを予想する。

<TDB>

12月3日の3M1042回債(2022年3月14日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1451% (前回債△0.1470%)、平均落札利回り△0.1552% (前回債△0.1518%) となった。来週は12月9日に6M、12月10日に3Mの入札がある。